

# 総務常任委員会行政視察概要

令和7年8月7日（木）

於 鞍ヶ池公園プレイハウス多目的室1

午後2時～午後4時

## 1 調査概要

「スマートインターチェンジについて」

幹線道路推進課 課長

幹線道路推進課 副課長

豊田市には8つのインターチェンジが設置されており、そのうちの2つがスマートインターチェンジとなっている。鞍ヶ池スマートインターチェンジは、平成21年、豊田上郷スマートインターチェンジは令和3年に供用開始されている。スマートインターチェンジ設置の効果としては、周辺の交通渋滞の緩和、輸送車の時間短縮からの物流コストの減少や生産性の向上、救急活動の広域搬送円滑化につながっていくということであった。

鞍ヶ池スマートインターチェンジについては、キャンプや子どもの遊び場、動物園等のある鞍ヶ池公園と隣接しており、豊田市の観光名所である香嵐渓から一番近いインターチェンジとなっている。開設により香嵐渓の観光シーズンの渋滞が10キロ程度あったものが5キロ程度になったり、観光交流人口の増加につながっている。また鞍ヶ池公園についても県外や市内から訪れる人が増えている。現在、計画交通量が1,190台／日に対して、1,140台／日であり、利用促進が今後の課題である。

豊田上郷スマートインターチェンジについては、工業地帯に位置し、市民の利便性向上だけでなく、輸送時間の短縮など産業面でも与えた影響は大きい。上郷スマートインターチェンジは計画交通量が6,500台／日となっており、利用台数がすでに超えている。



## 2 主な質疑応答

問 豊田上郷スマートインターチェンジが設置されてから産業の誘致は進んでいるのか。

答 都市計画の変更もおこなうなどして産業の誘致は進んでいる。

問 事業を進めるにあたって国・県・市・ネクスコなどがあるがどこが中心となって進めていくのか。

答 スマートインターチェンジは市の事業であり、市が計画して国や県、ネクスコと相談して積極的に進めていく必要がある。

問 鞍ヶ池地区の住民は、豊田松平インターチェンジを多く利用しており、旭地区、稲武地区の住民は、鞍ヶ池スマートインターチェンジを利用しているが要因分析はできているのか。

答 幹線道路の整備が整ってきており、下道でもそんなに時間が変わらないという状況が発生しているため。鞍ヶ池は、東海環状自動車道の沿線に出向いて利用のPRをしている。

問 設置されたことによって渋滞ができたことはないか。

答 豊田上郷スマートインターチェンジは現在検証中であるが、一般道の渋滞が緩和は確認できている。

スマートインターチェンジにアクセスすることによる混雑を見越して周辺の交差点の改良も先行してやった効果もあり渋滞はない。

問 鞍ヶ池スマートインターチェンジができることで、両隣のインターチェンジの利用者はどのくらい減ったのか。

答 両隣は減っているが、両隣と、鞍ヶ池を併せた利用者は10%程度増えている。



問 スマートインターチェンジを始めるにあたって苦労した点は。

答 社会実験を早い時期に始めたので、スマートインターと県道の接続地点についてそれぞれ国や県、ネクスコなど協議相手について苦労した。

以上